

主要国の社会保障サービスの状況 (%)

	日本	アメリカ	イギリス	ドイツ	フランス	スウェーデン
社会保障給付費の 対国民所得比	16.2	19.4	26.9	31.5	35.6	52.5
年 金	8.3	8.7	10.9	13.7	17.5	21.4
医 療	6.1	7.1	7.3	8.7	8.8	10.2
福 祉 等	1.8	3.6	8.7	9.2	9.4	20.9

主要国の税制上の引当金の概要

	日本	アメリカ	イギリス	ドイツ	フランス
	(96年度末残高)	負債性引当金は原則として認められていない	負債性引当金は原則として認められていない	負債性引当金に関し、税法上は一般的な規定がなく、企業会計に従い個別に認められる。	負債性引当金は引当金に関する一般規定に基づき一定の要件を充足すれば認められる。
貸倒引当金	46,726億円	×	×	○	○
返品調整引当金	N. A.	×	×	×	×
賞与引当金	87,768億円	×	×	○	○
退職給付引当金	139,335億円	×	×	×	×
特別修繕引当金	N. A.	×	×	○	○
製品保証等引当金	2,511億円	×	×	○	○

米軍が本格的な在韓米人退避訓練

対共和国戦争挑発を許すな

点からバスや列車で在韓米軍に集合、そこから航空機で横田基地に退避した。こうした訓練 자체は過去にも行われているとはいえ、今回の訓練で特筆すべきは「ゲリラが紛れ込まないよう個人を識別する『記章』」を導入していることである。これは、パスポートやカードの情報をバーコードとして記録したりストランドで、スキヤナによって読み取り本人チェックをする。今回の訓練でも、複数地点でのチェックが行われたという。

九月の新「日米防衛協力のための指針(ガイドライン)」において日米共同の「ゲリラ・コンマンドウ攻撃への対処」がうたわれていたことを例に挙げるま

十月二十五日、米軍が本格的な在韓米人「退避」訓練を実施したことなどが明らかとなつた。

額がさらに低められ、支給年齢も七十歳からとうことがこの国の支配階級から出されてきているのである。そういうえば、一

者全体をしつかりと資本の下に繋ぎ止める「抑圧の体系」を作り上げる手段としているのです。

10

の臨調「行革」路線は、七
初頭にかちとられた老人
無料化、厚生年金・国民
価スライド制をはじめ
社会福祉政策の反動化の
を進めるものである。こ
中曾根の「日本列島不沈沈
路線と軌を一にした軍拡
の社会保障の切り捨て路
ならなかつた。

○年代
年金物
医療費
道へ歩
面的な
道へ歩
は、
れは、
「社会保
障はすべての労働者
の基本的権利をなして
いる。それは各国にお
ける諸闘争と經濟的
的社会的發展に固く結びついて
いる。社会保
障制度の導入は、
労働者階級が多年にわたって雇
用主の搾取に反対して行つてき
た数え切れない統一した闘いの
成果である。資本主義諸国にお
ける闘争の中で生み出されてき
たこれらの勝利は、労働者の不
断の行動と警戒のみが維持する

曙光さと限界を孕んだ宣言とはいえ、社会保障は労働者階級こそが唐擱られた全人民の先頭に立ち、資本家とのたたかいの中でかち取つてきただものであることがはきつりとうたわれているのである。

現在の社会保障制度の後退は、まさしく労働者階級のたたかいの後退に他ならない。大企業の労働組合や自治労にみられる「連合」労働運動は日本の労働者階級の中の上層を代表し、逆行性をともなつた社会保障制度の中においては年金をはじめま

だしも恵まれた地位を保つて、い
る。公務員は最大六十ヶ月分の
退職金が一般化されている。す
なわち六十年までの五年
間、それなりにメシを食つてい
けるのである。しかし、日本の
労働者階級の多数派である中小
民間労働者でそれが保障されて
いる層はほとんどない。公務員
の賃金を平均的労働者の水準と
せよといふバリコミューンの原
則は、支持されなければならな
い。ただし、公務員の現在のそ
れを中小企業並みの労働水準に
下げるににおいてするのでは
なくである。もちろん、この層
においても出向や過労で、い
た災禍につきまとわれてはい
る。そして下層労働者の利害を
顧みないこれら「連合」の労働運
動はすでに保守化し、日帝の土
権を担ぐところにまで至つてい
る。この帝国主義労働運動は、
保守政党と融合し下層労働者の
たたかいに敵対し、アジアの労
働者のたたかいに敵対してい
る。そうすることにより、日本
の社会保障制度をも足元から壊
り崩しているのである。

「生存するのも危ういほどの
賃金しかもらえず—わたしは、
女を中心とする中小企業やバー

技術の発達と社会運動

発想の転換

生産手段が成熟段階の発達過程に入り、生産力発展の規定的推進力が生産手段の発達から人間労働力の自由な発展へ移行する時代の圧力が強まる中で、資本本の拡大再生産によって促進されるその過程は、資本主義の根本的廃絶へと向かわざりにない。

そのことは、次の点に現れる。すなわち第一に、これまで共産主義の高度の段階で実現するも

のとしてきた分業の止揚という目標が、私的所有の廃絶という法制度上の革命の目標となる。で、現在の運動の目標となること。第二に、ブルジョア国家批判において、プロレタリア階級独裁国家の樹立となる。第三に、労働者階級の指導的役割が高次化したことである。

(1)

これまで労働者階級の自己解

き

これまでの国家批判は、だ

ししかし今日の技術の発達は、

国家に変質していった。」

第二に、代議制民主主義を廢止し、政治活動と経済活動の分

る。第三に、國家存在の根拠たる

は、この社会の分業体系の要

の流れとなつてゐる。ネットワークの発達と分業の止揚を基盤に、階級差別・社会的差別一般の国境と国籍を越えた共

労働者の権利をたたかいとする性格のものであり、その反面で労働者相互間に権利を巡る対立を残すものであり、労働者相互間の競争を根底から止揚するものではない。後者は、「権利」のもつ限界を取り払い、労働者が、分業への隸属から自己を解放することによって他者に（従つて国境）の廃絶などいう内容を、現在的に明確に含むこと。

第三に、労働者階級の指導的役割が高次化したことである。第三に、労働者階級の指導的役割が高次化したことである。第三に、労働者階級の指導的役割が高次化したことである。

そこででは労働時間の大幅な短縮が不可欠になる。労働者階級がこうした否定的契機を巡る相互間の競争を根底から止揚するものではない。後者は、「権利」のもつ限界を取り払い、労働者が、分業への隸属から自己を解放することによって他者に（従つて国境）の廃絶などいう内容を、現在的に明確に含むこと。

第三に、労働者階級の指導的役割が高次化したことである。第三に、労働者階級の指導的役割が高次化したことである。第三に、労働者階級の指導的役割が高次化したことである。

そこででは労働時間の大幅な短縮が不可欠になる。労働者階級がこうした否定的契機を巡る相互間の競争を根底から止揚するものではない。後者は、「権利」のもつ限界を取り払い、労働者が、分業への隸属から自己を解放することによって他者に（従つて国境）の廃絶などいう内容を、現在的に明確に含むこと。

そこででは労働時間の大幅な短縮が不可欠になる。労働者階級がこうした否定的契機を巡る相互間の競争を根底から止揚するものではない。後者は、「権利」のもつ限界を取り払い、労働者が、分業への隸属から自己を解放することによって他者に（従つて国境）の廃絶などいう内容を、現在的に明確に含むこと。

そこででは労働時間の大幅な短縮が不可欠になる。労働者階級がこうした否定的契機を巡る相互間の競争を根底から止揚するものではない。後者は、「権利」のもつ限界を取り払い、労働者が、分業への隸属から自己を解放することによって他者に（従つて国境）の廃絶などいう内容を、現在的に明確に含むこと。

そこででは労働時間の大幅な短縮が不可欠になる。労働者階級がこうした否定的契機を巡る相互間の競争を根底から止揚するものではない。後者は、「権利」のもつ限界を取り払い、労働者が、分業への隸属から自己を解放することによって他者に（従つて国境）の廃絶などいう内容を、現在的に明確に含むこと。

そこででは労働時間の大幅な短縮が不可欠になる。労働者階級がこうした否定的契機を巡る相互間の競争を根底から止揚するものではない。後者は、「権利」のもつ限界を取り払い、労働者が、分業への隸属から自己を解放することによって他者に（従つて国境）の廃絶などいう内容を、現在的に明確に含むこと。

そこででは労働時間の大幅な短縮が不可欠になる。労働者階級がこうした否定的契機を巡る相互間の競争を根底から止揚するものではない。後者は、「権利」のもつ限界を取り払い、労働者が、分業への隸属から自己を解放することによって他者に（従つて国境）の廃絶などいう内容を、現在的に明確に含むこと。

深山和彦

通して始動し発展するのである。

いまでもなくこうした社会

革命の目標は、核心において資

本・賃労働関係を否定するもの

である。われわれは、資本の支

配の下では、それを部分的にし

か実現できないし、核心におい

て実現することはできない。社

会革命の目標は、ブルジョア

国家を打倒しプロレタリア階級獨

立たるのである。今日のブルジョア

国家批判は、ブルジョア国家を

プロレタリア国家に置き換える

のである。

そこででは労働時間の大幅な短縮が不可欠になる。労働者階級がこうした否定的契機を巡る相互間の競争を根底から止揚するものではない。後者は、「権利」のもつ限界を取り払い、労働者が、分業への隸属から自己を解放することによって他者に（従つて国境）の廃絶などいう内容を、現在的に明確に含むこと。

そこででは労働時間の大幅な短縮が不可欠になる。労働者階級がこうした否定的契機を巡る相互間の競争を根底から止揚するものではない。後者は、「権利」のもつ限界を取り払い、労働者が、分業への隸属から自己を解放することによって他者に（従つて国境）の廃絶などいう内容を、現在的に明確に含むこと。

そこででは労働時間の大幅な短縮が不可欠になる。労働者階級がこうした否定的契機を巡る相互間の競争を根底から止揚するものではない。後者は、「権利」のもつ限界を取り払い、労働者が、分業への隸属から自己を解放することによって他者に（従つて国境）の廃絶などいう内容を、現在的に明確に含むこと。

そこででは労働時間の大幅な短縮が不可欠になる。労働者階級がこうした否定的契機を巡る相互間の競争を根底から止揚するものではない。後者は、「権利」のもつ限界を取り払い、労働者が、分業への隸属から自己を解放することによって他者に（従つて国境）の廃絶などいう内容を、現在的に明確に含むこと。

そこででは労働時間の大幅な短縮が不可欠になる。労働者階級がこうした否定的契機を巡る相互間の競争を根底から止揚するものではない。後者は、「権利」のもつ限界を取り払い、労働者が、分業への隸属から自己を解放することによって他者に（従つて国境）の廃絶などいう内容を、現在的に明確に含むこと。

そこででは労働時間の大幅な短縮が不可欠になる。労働者階級がこうした否定的契機を巡る相互間の競争を根底から止揚するものではない。後者は、「権利」のもつ限界を取り払い、労働者が、分業への隸属から自己を解放することによって他者に（従つて国境）の廃絶などいう内容を、現在的に明確に含むこと。

そこででは労働時間の大幅な短縮が不可欠になる。労働者階級がこうした否定的契機を巡る相互間の競争を根底から止揚するものではない。後者は、「権利」のもつ限界を取り払い、労働者が、分業への隸属から自己を解放することによって他者に（従つて国境）の廃絶などいう内容を、現在的に明確に含むこと。

そこででは労働時間の大幅な短縮が不可欠になる。労働者階級がこうした否定的契機を巡る相互間の競争を根底から止揚するものではない。後者は、「権利」のもつ限界を取り払い、労働者が、分業への隸属から自己を解放することによって他者に（従つて国境）の廃絶などいう内容を、現在的に明確に含むこと。

そこででは労働時間の大幅な短縮が不可欠になる。労働者階級がこうした否定的契機を巡る相互間の競争を根底から止揚するものではない。後者は、「権利」のもつ限界を取り払い、労働者が、分業への隸属から自己を解放することによって他者に（従つて国境）の廃絶などいう内容を、現在的に明確に含むこと。

そこででは労働時間の大幅な短縮が不可欠になる。労働者階級がこうした否定的契機を巡る相互間の競争を根底から止揚するものではない。後者は、「権利」のもつ限界を取り払い、